

『広島経済大学研究紀要』執筆要項

〔平成22年6月10日
制 定〕

最終改正 2023（令和5）年6月8日

趣 旨

この要項は、『広島経済大学研究紀要』（以下、論集という）の投稿要項に基づき、原稿執筆について必要な事柄を定める。

（1）原稿

提出原稿は、完成原稿とし、執筆要項に従って執筆したもので、原則としてMicrosoft Wordで作成した電子原稿（以下原稿とする）とし、印刷したものを1部提出する。

（2）論文の構成要素

論文の構成要素は、以下のとおりとし、これ以外は構成要素に含めないこととする。

- ① 標題（副題名を含む）
- ② 著者名
- ③ 著者の所属機関名等（脚注へ記載する）
- ④ 要旨、抄録等（和文）又はabstract（英文）
どちらか1つ又は両方を任意項目とする。和文の論説にabstract（英文）を掲載する場合は、文末に記述する。
- ⑤ キーワード（1つ以上5つ以内、言語は問わない）
- ⑥ 本文
- ⑦ 注記
- ⑧ 参考文献

（3）原稿の標準的作成方法は、以下のとおりとする。

- ① 用紙サイズは、A4判縦長とし、横書き1段組とする。Microsoft Wordの45文字×38行を基準とし、余白は、上25mm、下25mm、左25mm、右25mmとする。
- ② フォントは、和文においては明朝、欧文はTimes New Romanを基本とする。
- ③ 文字ポイントは、和文は10.5pt、欧文は12ptとし、和文はひらがな、カタカナ、漢字を全角とし、欧文英数字は半角を使用する。

（4）1ページの体裁

- ① 標題は、中央揃えで記載する。
- ② 副題名は行を改め、中央揃えで記載する。
- ③ 著者名は、標題から1行開けて中央揃えで記載する。名前の後には、著者の所属を参照するために、上付きで記号を付記し、脚注（後述）で所属を記載する。なお、著者が複数の場合、中黒点で区切る。欧文の場合は、最後の著者名とその直前名の間はandで区切る。
- ④ 著者の所属は、脚注に次のように記載する。

和文の場合

＊広島経済大学経済学部経済学科教授

欧文の場合

＊Professor, Hiroshima University of Economics, Hiroshima, Japan

（5）本文の体裁

- ① 章・節・項は、原則として次のとおりとする。本文は、それぞれから1行改行して記載する。

	表記	表示位置
章	1. 2. 3.	行の左端

節	1.1	1.2	1.3	
項	1.1.1	1.1.2	1.1.3	行の左端から1文字目

② 数字

- (1) 原則として算用数字(アラビア文字)(半角)を使用する。
- (2) 熟語、成句、固有名詞は和数字を使用する。

③ 図・写真と表

- (1) 図・写真及び表は、A4判用紙で縮尺を考慮した完全な図面として提出する。オリジナルは一つごとに別紙として原稿の最後にまとめる。本文原稿の右欄外に朱書きで「図1. 入る」、「表1. 入る」と記入し、それらの掲載箇所を指定する。
- (2) 図(グラフ、説明図、写真等)は、図1、図2として、その次に図の表題を記載する。図の番号及び表題は、図の下に記載することを原則とする。
- (3) 表は、表1、表2としてその次に表の表題を記載する。表の番号及び表題は、表の上に記載することを原則とする。
- (4) 図表等を他の文献から転載する場合は、著者の責任において転載許可を得て、その出典を明記すること。

④ 注記・参考文献

注記については、原則として、次の(1)または(2)によるものとする。

- (1) 注記と文献引用を区別しない場合は、1)、2)…の通し番号を参照箇所の右肩に、章節に関係なく付け、注記・文献引用そのものは、本文末尾に番号順にまとめて記載する。

〔例1〕……もつとも賢明な選択であると考え¹²⁾。

〔例2〕……土地領主権を基礎とする関係が原則となった²³⁾。

<文末に>

注記 12) Keohane, R. O. *After Hegemony*, Princeton University Press, 1984.

猪口邦子「パックス・アメリカナを越えて」『世界』, 1987, 1月号。

23) 肥前栄一氏が、ロシア貢納制における……を、ヒトーヒトーヒトの展開と規定していることは興味深い(肥前栄一「家族史から見たロシアとヨーロッパ」『ユーラシア研究』第3号, 1994年, 17-18ページ)。

- (2) 注記と文献引用を区別する場合、注記については上記(1)の様式によるが、文献引用については、下記の例のように著者名、発行年で示し、本文末尾に参考文献を著者名順に掲載する。欧文の著者名はアルファベット順、和文の著者名は五十音順に、それぞれ列記する。なお、同一著者の同一年の著書・論文を複数引用する場合は、発行年の次に a, b…を付ける。

〔例3〕Bencivenga, Smith and Starr(1995)は、金融市場の発達が……

〔例4〕……金融市場への政府介入が不可欠であったと考えられている(寺西, 1995a)。

<文末に>

参考文献

Bencivenga Valerie R., Bruce D. Smith, and Ross M. Starr (1995) :

“Transactions Costs, Technological Choice, and Endogenous Growth,”

Journal of Economic Theory 67, pp.153-177.

寺西重郎 (1995a) 『経済発展と途上国援助』東京大学出版会

- (3) 注記・文献引用の他に参考文献がある場合は、(2)と同様に著者名順に列記する。
- (4) 学問分野によって、上記(1)または(2)により難しい場合は、適切と思われる様式とする。ただし、本誌の体裁を著しく損ねると予想される場合は、編集委員会がその修正・変更を求めることもある。

附 則

- 1 この要項は、平成22年6月10日から施行する。

- 2 広島経済大学『経済研究論集』・『研究論集』投稿についての申合せ（平成12年6月8日制定）は、廃止する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日に遡り施行する。

附 則

この要項は、2022（令和4）年6月9日から施行する。

附 則

この要項は、2024（令和6）年4月1日から施行する。